

## 【今日の説教から】

「イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のこと語られた」。

私たちは、イースターの時以来、ずっとご自分の姿を現し続け、弟子たちにその復活のお姿を見せてくださいましたイエス様のことを聖書から学んでまいりました。

ご自身が「生きていること」を「数々の確かな証拠によって」現わしてくださいましたイエス様は、今日も生きておられ、私たちに数々の確かな証拠をお知らせください、今日もご自分が生きておられることを示し続けていてくださいます。

弟子たちはイスラエルの国の復興を強く望んでいました。復興しなければならないということは、今の国の状態は荒れ果てていたということです。それは国がローマの属州となり、総督の下に置かれていたということだけではないはずです。それはイエス様を目の敵にして十字架につけた者たちが祭司長であり、律法学者たちであり、最高法院の議員たちであつたこともあるのではないでしょうか。

イエス様はその復興は、父なる神様のお約束の通り、弟子たちが聖靈を受けて力を受けて近くから、地の果てにまで、全世界にイエス・キリストの証しを立てることによってもたらさると語られました。主が再び来られるとき、この世界はどのような所となっているのでしょうか。世界の復興のため立ち上がりましょう。

皆様おはようございます。

寒暖差のある日々ですが、お元気にお過ごしでいらっしゃいましたか。

今日は母の日です。教会の女性の皆様方に心より感謝を申し上げます。いつも教会の神の家族のため、温かいお心配りとにこやかな笑顔で和やかさを注いでください、励まし、心を明るくしてください、本当にありがとうございます。

いよいよ来週にペンテコステ(聖靈降臨日)を控えるこの日の礼拝となりました。

神様はお約束なさった聖靈を弟子たちにそぞぐことによって何を望み、願っておられたのでしょうか。

1:3 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のこと語られた。

イエス様は苦難をお受けになられました。それは私たちの罪の身代わりとして十字架に死ぬという苦難でした。私たちの罪の贖いとして命を失うという苦難でした。

ヨハネ 15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

ヨハネ 12:23 すると、イエスは答えて言われた、「人の子が栄光を受ける時がきた。

12:24 よくよくあなたがたに言っておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。

12:25 自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう。

マルコ 8:34 それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

8:35 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。

8:36 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。

8:37 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。

8:38 邪悪で罪深いこの時代にあって、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう」。

イエス様は、私たちが命を得るために進んでご自身の命を投げ出してくださいました。それは、私たち、また全世界の信じる者が永遠の命を持つためです。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとも滅びないで、永遠の命を得るためである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

3:18 彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

3:19 そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

1:3 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のこと語られた。

そのようにして、主イエス様は、私たちの命のために苦難をお受けになられました。そのうえ、恐れ震える弟子たちのために、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のこと語られました。

マタイ 6:21 あなたの宝のある所には、心もあるからである。

6:22 目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだろう。

6:23 しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだろう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう。

6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

6:25 それだから、あなたがたに言っておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取りいれることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかつた。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように裝つて下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日一日だけで十分である。

主は神の国のこと語られました。それは私たちが今この時、近いところにあるものばかりを見て一喜一憂している世界とは違います。私たちが今日何を着て、何を食べるのかということを考えることとは違います。人のことを考えず、神のことを第一に考える世界です。

マルコ 8:31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、

8:32 しかもあからさまに、この事を話された。すると、ペテロはイエスをわきへ引き寄せて、いさめはじめたので、

8:33 イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言られた、「サタンよ、引きさがれ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」。

箴言 19:21 人の心には多くの計画がある、しかしただ主の、み旨だけが堅く立つ。

19:22 人に望ましいのは、いつくしみ深いことである、貧しい人は偽りをいう人にまさる。

19:23 主を恐れることは人を命に至らせ、常に飽き足りて、災にあうことはない。

マタイ 6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

主イエス様は最高最善の教えを弟子たちに語られました。すなわちそれが、神の国を求め、神の国のことを考えることです。

ヘブル 11:1 さて、信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。

11:2 昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。

11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。

11:4 信仰によって、アベルはカインよりもまさったいにえを神にささげ、信仰によって義なる者と認められた。神が、彼の供え物をよしとされたからである。彼は死んだが、信仰によって今もなお語っている。

11:5 信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。

11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。

11:7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事がらについて御告げを受け、恐れかしこみつつ、その家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世の罪をさばき、そして、信仰による義を受け継ぐ者となった。

11:8 信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った。

11:9 信仰によって、他国にいるようにして約束の地に宿り、同じ約束を継ぐイサク、ヤコブと共に、幕屋に住んだ。

11:10 彼は、ゆるがぬ土台の上に建てられた都を、待ち望んでいたのである。その都をもくろみ、また建てたのは、神である。

11:11 信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなさったかたは真実であると、信じていたからである。

11:12 このようにして、ひとりの死んだと同様な人から、天の星のように、海べの数えがない砂のように、おびただしい人が生れてきたのである。

11:13 これらの人々はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。

11:14 そう言いあらわすことによって、彼らがふるさとを求めていることを示している。

私たちは地上では旅人であり寄留者です。

ヨブ 1:20 このときヨブは起き上がり、上着を裂き、頭をそり、地に伏して押し、

1:21 そして言った、「わたしは裸で母の胎を出た。また裸でかしこに帰ろう。主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな」。

使徒 1:3 イエスは苦難を受けたのち、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって

示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のこと語られた。

イエス様は、ペンテコステまでの50日の間、実に40日にわたって弟子たちに現れ、自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し、四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のこと語られました。

彼らがイエス様との地上での目で見るお交わりを失ってのち何を土台として生きていくのか。この邪な世界の中でいかに生き、何を目標としていくのか、主は旅立たれる前までそのことを指し示されました。主はご自身が確かに生きていることを数々の証拠をもって示されました。この証拠は、今日を生きる私たちのためにも有用な証拠です。そして主は、見ずとも信じる私たちのために、目には見えなくても、ご自身が確かに生きているということを、私たちの人生の中に数々の証拠をもって示し続けてくださったはずです。そして私たちは、私たちが私たち自身の生き方を生きるがままにいるのではなくて、神の国のために、神のために生きることを願っておられます。

1:4 そして食事を共にしているとき、彼らにお命じになった、「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい。

1:5 すなわち、ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは間もなく聖靈によって、バプテスマを受けられるであろう」

それはペンテコステの日、エルサレムで起こるべき出来事でした。多くの巡礼者たちの間で示されるべきものでした。ですからイエス様は弟子たちにエルサレムに留まるべきことを語られました。それが迫害の中心地であろうとも、私たちにとって仮に受け入れがたいつらいものであったとしても、主のご命令には意味があります。

その困難の地で、その迫害の地で、その逆風の場所で、主は私たちを聖靈により力づけてくださいます。

1:6 さて、弟子たちが一緒に集まったとき、イエスに問うて言った、「主よ、イスラエルのために国を復興なさるのは、この時なのですか」。

1:7 彼らに言われた、「時期や場合は、父がご自分の権威によって定めておられるのであって、あなたがたの知る限りではない。

1:8 ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

弟子たちは、国の復興を願いました。これは彼らが自分のことばかり願うのではなくて、神の国を願う、素晴らしい願いでした。イスラエルは今ローマの属州となり、屈服させられ、

税を支払うように課され、自由が束縛されていました。そればかりか、国の内側を見ても、祭司長、律法学者、最高法院の議員たちも、寄ってたかってイエス様を目の敵にして、夜中の逮捕に続いて不当な裁判の後に主を十字架につけてしまいました。こういう外にも内にも荒み切った状況の中、そういう閉塞の中にあって、弟子たちは国の復興を願いました。国の復興を願う。それは現代にも続く深くも重いテーマなのではないでしょうか。国々は荒み切っているのではないでしょうか。国と国との闘いは続き、国の中にもあらゆる不公正と、冷淡さがあり、弱肉強食、強い者たちの勝手な理屈によって多くの人たちが軽んじられ、人を人とも思わないような侮辱と人間軽視の風が吹き荒れているのではないでしょうか。

1:8 ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となるであろう」。

復興を必要としているのはエルサレムだけではありません。ユダヤとサマリヤのイスラエル全体と、さらに地の果てまで全世界が復興を必要としています。聖靈が下るとき、私たちが力を受ける時、私たちは世界に向けての復興のために働き手となるのです。そのために必要な力を、私たちは聖靈によって受けるのです。聖靈を受けるということは、私たちが近くから遠くまで、神の国と神の義を、神様の御思いを第一とするということを語り、世界の復興を来たらせるための働きをするということなのです。そして聖靈はまず第一にエルサレムから働きかけられます。そこには神殿があり、教えの中心となる人たちがいます。イエス様を亡き者にした人たちです。頑迷な人たち、その人たちにまず神様は働きかけられるのです。聖靈の力が、人にはできないことを成し遂げるのです。そしてそこから世界を変えていかれるのです。復興が起こされるのです。今私たちも、まずは自分たちから新しくされる、聖靈によって互いに語り、証しをし合い、変えられる、その復興があつて、世界の復興につながることを心に留めたいと願います。

1:9 こう言い終ると、イエスは彼らの見ている前で天に上げられ、雲に迎えられて、その姿が見えなくなった。

1:10 イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて

1:11 言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう」。

弟子たちはポカーンと天を見上げて立っていました。しかしいつまでも私たちはイエス様が雲に隠れたその空を見つめて心細くたっている必要はありません、私たちは聖霊に促され、その風に押していただき、主が空に昇って行ったありさまでまた帰ってこられるときまで、主にお命じになられたことを実行していくのです。さあ、出発しましょう。

マタイ 28:18 イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

28:20 あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。主のお励ましをいつもありがとうございます。主は私たちのために十字架の苦難を受け、身代わりの死を通して私たちの贖いとなられ、復活して、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話されました。国の復興、世界の復興のためにあなたはご自身の命をささげてくださいました。今も世界は荒れ果てています。どうぞ聖霊の力により、私たちを証し人として今週も世界に遣わしてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン